

2021年2月10日

スポーツを通じて世界にはばたく逞しい人材の育成を目指すスポーツチャレンジ助成事業  
2021年度(第15期生)「YMFS スポーツチャレンジ(体験/研究)助成」

## 31件の対象者に総額3,065万円の助成を決定

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団(Yamaha Motor Foundation for Sports)は、2021年度(第15期生)「YMFS スポーツチャレンジ(体験/研究)助成」について、体験助成15件、研究助成16件、計31件(総額3,065万)の助成対象者を決定しました。助成金贈呈式は、2021年3月末(都内)に実施する予定です。

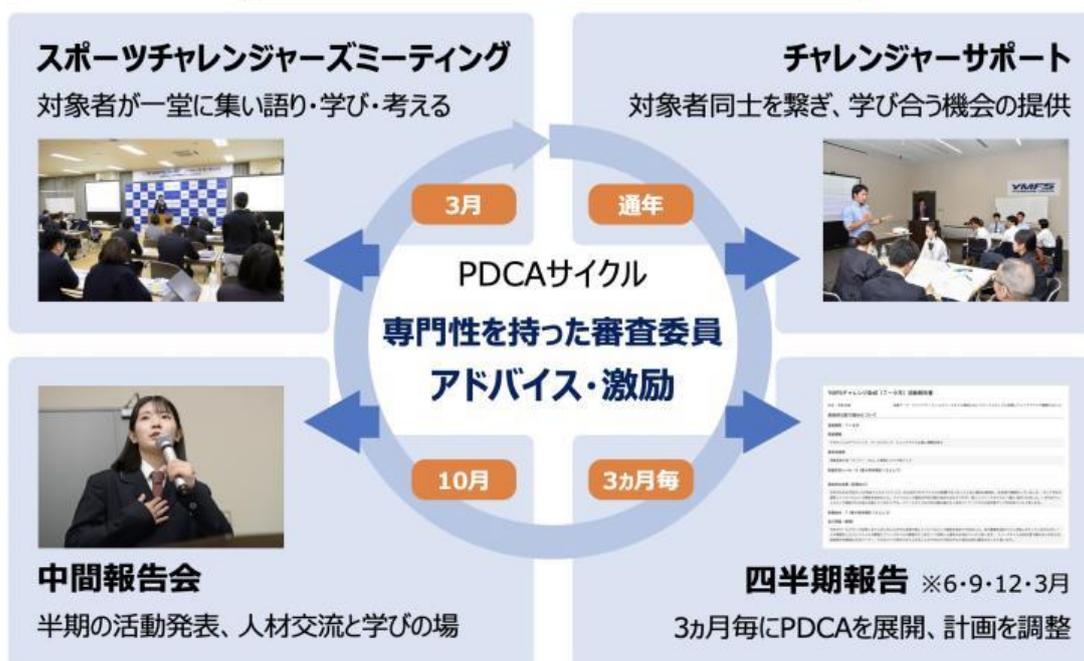
本助成事業では、成果だけを求めるのではなく、目標を掲げ達成に至るまでのプロセスも重視しています。そこで、四半期報告、中間報告会、成果報告会によるPDCAサイクルを実践しながら、さまざまな経験や異分野交流など成長機会を提供する独自のサポートプログラムを通じて活動します。

2020年度は新型コロナウイルス感染症の拡大もあり、リモートを活用したサポートを実施しましたが、2021年度はリモートも含めたさまざまな方法で、助成対象者が学び、刺激し合える交流会など、チャレンジを加速する質の高いサポートを提供していく予定です。

### 2021年度(第15期生)の助成概要 ※活動期間は、2021年4月から2022年3月

プログラム	申請件数	採択件数	助成金額(計)
スポーツチャレンジ体験助成	43件	15件	1,596万
スポーツチャレンジ研究助成	53件	16件	1,469万
計	96件	31件	3,065万

#### <YMFS独自のサポートプログラム>



※この件に関するお問い合わせは、下記までご連絡ください。(担当: <sup>みすみ</sup>三角)

[www.ymfs.jp](http://www.ymfs.jp)

公益財団法人 ヤマハ発動機スポーツ振興財団 (YMFS)

〒438-8501 静岡県磐田市新貝 2500  
TEL: 0538-32-9827 FAX: 0538-32-1112

Yamaha Motor Foundation for Sports (YMFS)

2500 Shingai, Iwata, Shizuoka, 438-8501 Japan  
Tel: +81 538 32 9827 Fax: +81 538 32 1112

## 2021 年度(第 15 期生)スポーツチャレンジ体験助成 対象者一覧 (2021 年 2 月 1 日現在)

「体験助成」は、アスリート・指導者・審判など各種体験活動に対して助成金を交付するもので、3 つのカテゴリで構成しています。

- ジュニア(上限 50 万円):ジュニア世代の国際大会で実績を有する者
- ベーシック(上限 100 万円):国際レベルでの活躍を目指す者
- アドバンスド(上限 150 万円):国際レベルの実績を有する者

区分	氏名(年齢)	種目	チャレンジテーマ	所属
ジュニア	もりや たくみ 守屋 拓海 (14)	ウインドサーフィン/選手	ウインドサーフィン/フリースタイルに於いてワールドカップに出場し、U-17 クラスで優勝を目指す	浜松市立庄内学園
	ちば もね 千葉 百音(15)	フィギュアスケート/選手	トリプルアクセル、4 回転ジャンプを習得し世界と闘う	仙台市立寺岡中学校
ベーシック	むらた のあ 村田 希空(18)	スノーボードアルペン/選手	アルペンスノーボードでワールドカップ出場を目指す。世界で通用する技術を身につける。	近江兄弟社高等学校
	かなざわ のあ 金澤 野愛(17)	スノーボードアルペン/選手	スノーボード競技アルペン種目でワールドカップ出場、オリンピック出場を目指す	飯田風越高等学校
	くぼた まちこ 久保田 真知子(17)	スキージャンプ/選手	スキージャンプ・誰よりも遠くへ翔ぶ！2026(2020)オリンピック出場を目指して！！	長野県飯山高校
	ささき かずも 佐々木 颯杜(14)	アイスホッケー/選手	全米 NCAA から北米プロリーグへの挑戦、そして日本代表でオリンピック出場を目指す	Ontario Hockey Academy
	おおた かえで 太田 楓 (15)	近代五種/選手	近代五種でオリンピック出場を目指して！	根室市立光洋中学校
	さとう ひめか 佐藤 姫夏(19)	トライアスロン/選手	トライアスロンを通して競技力・人間力・国際力を高め、パリオリンピック出場、ロス2028 表彰台を目指す	敬愛大学国際学部
	なくさ あきら 名草 慧(27)	ハンググライダー/選手	アジア人初のハンググライダー世界チャンピオンを目指しています！	公益社団法人 日本ハング・パラグライディング連盟
	まつもと りゅう 松本 龍(18)	フェンシング(エペ)/選手	2024年パリオリンピックに出場する為、シニアジュニアの国際大会に参加し世界ランキング向上に努める。	東京都立王子総合高等学校
	たけした こうせい 竹下 航生(19)	レスリング(グレコローマン)/選手	レスリンググレコローマンスタイルで2024年パリ五輪に日本代表として出場し、金メダル獲得を目指す。	拓殖大学 国際学部国際学科
アドバンスド	むらかみ れい 村上 レイ(17)	アイスホッケー/選手	北米ジュニアホッケーリーグで活躍できる選手になるための挑戦	Rink Hockey Academy U18 Prep
	やまもと そうた 山本 草太(20)	フィギュアスケート/選手	フィギュアスケート競技での北京オリンピック出場を目指す。オリンピック表彰台に必要な力を身につける。	中京大学 スポーツ科学部 競技スポーツ科学科
	かきざき ゆうじん 蠣崎 優仁(21)	自転車ロードレース/選手	ヨーロッパでプロ選手となり、ツールドフランス・オリンピック等世界トップレースでの活躍を目指す	Velo Sport Valletais EQADS
	うえむら ゆうき 上村 勇貴(25)	パラ陸上(中距離)/選手	陸上800mにおいて、自己の持つWPAアジア記録の更新と、次期世界選手権大会等でメダル獲得を目指す。	日本知的障がい者陸上競技連盟

## 2021 年度(第 15 期生)スポーツチャレンジ研究助成 対象者一覧 (2021 年 2 月 1 日現在)

「研究助成」は、スポーツにかかわる学問、研究活動に対して助成金を交付するもので、2つのカテゴリで構成しています。

- 奨励(上限 60 万円):大学院博士課程に在籍中または学位未修得の若手
- 基本(上限 120 万円):研究職として活動に従事する研究者

区分	氏名	分野	チャレンジテーマ	所属
奨励	おぬま けんご 小沼 憲吾(26)	自然科学	野球選手における肘障害の予防法開発に向けた挑戦:筋はどれだけ肘を守れているのか?	早稲田大学 スポーツ科学研究科
	かわしま まさと 川島 将人(27)		アスリートは骨格筋損傷の程度によってアイシングを使い分けるべきか?	神戸大学大学院 保健学研究科
	なかやま こういち 中山 滉一(24)		下り坂疾走が固有走(平地走)に与える即時的効果の検討	中京大学大学院 体育学研究科
	なかい たく 中井 琢(25)		大規模ゲノムデータに基づく日本人スポーツ関連遺伝子 SNP の探索	東北大学 医学系研究科
	はやし ななこ 林 七虹(24)		ランニング運動時の衝撃と運動誘発性の溶血の関連	立命館大学大学院 スポーツ健康科学研究科
	まえみち としひろ 前道 俊宏(27)		踵部脂肪体の機能解剖学的特性の解明 -荷重変化に着目した超音波研究-	早稲田大学大学院 スポーツ科学研究科
基本	まえお すみあき 前大 純朗(35)	自然科学	関節トルクが最大となる関節角度は筋肥大のための至適なトレーニング実施角度となりうるか?	立命館大学 総合科学技術研究機構 スポーツ健康科学部
	ささき たまき 佐々木 多麻木(29)		口腔内で機能する 4D プリント温度応答性スポーツマウスガードの開発	東京医科歯科大学大学院
	はらむら みき 原村 未来(33)		子どもにおける自体重負荷運動時の簡易的な運動強度スケールの開発	国立スポーツ科学センター スポーツ科学部
	せきぐち やすき 関口 泰樹(29)		運動パフォーマンスと認知機能向上のための喉の渇きと脱水状態に基づく水分摂取の方法について	University of Connecticut Department of Kinesiology
	しま たける 島 孟留(31)		身体活動は遺伝的な優劣を超えて共感性を高めうるのか?	群馬大学 共同教育学部保健体育講座
	つかもと はやと 塚本 敏人(30)		競技終盤に低下する状況判断能力を改善するための新たなチャレンジ;運動・栄養生理学によるアプローチ	立命館大学 スポーツ健康科学部
	なかむら まさとし 中村 雅俊(33)		伸張性収縮のみを用いたレジスタンストレーニングの有用性の検討	新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部理学療法学科
奨励	まつぎき じゅん 松崎 淳(25)	人文社会	COVID-19 流行下での国際スポーツ大会開催プロセスにおけるキャパシティ・ビルディングの解明	神戸大学大学院 人間発達環境学研究所
基本	うえすぎ あん 上杉 杏(27)		幼児を持つ家庭における環境教育やESDとしてのアウトドアスポーツ・レジャーの活用有用性	カセサート大学 スポーツ科学部
	さとう ふゆか 佐藤 冬果(30)		ASE を活用した野外教育プログラムによる自己および集団への教育効果の検討	筑波大学 大学体育スポーツ高度化共同専攻